

# 第3章

## 市場の価格調整メカニズム

### 価格はどのように決まるのか？

2年生になった仲よし4人組はテニス&スノボサークルで楽しい学生生活を送っています。翔と麻里子は先輩から「きみたちは経済学部だから会計は得意だね？」という理由で夏合宿の幹事を任せられました。2人は「経済学は会計とは違うんだけど…」という釈然としない思いを抱えながらも、いくつかの旅行業者から見積りをとって比較をしています。



財の価格はどのように決まるのでしょうか。旅行サービスならば旅行会社、ケーキならばケーキ屋のように供給者が価格を決めているように見えますが、実は需要者も価格に影響を与えています。本章では需要・供給曲線を使って財の価格がどのように決まるのかを学びます。

#### 学習のポイント

- 完全競争市場の特徴を学ぶ。
- 市場需要曲線と市場供給曲線の導き方を理解する。
- 市場の価格調整メカニズムを理解する。

## 1 市場の分類

経済学では市場を完全競争市場、独占市場、寡占市場などに分類します。完全競争市場は、市場に参加している需要者と供給者が**プライス・テイカー（価格受容者）**である市場です。プライス・テイカーとは自分の行動によって市場価格を変えられない経済主体のことです。完全競争市場は多数の需要者と供給者から構成されます。特定の誰かが大きな市場シェアをもつわけではないので、需要者も供給者も市場価格に影響を与えることができないのです。

市場は生産物市場と生産要素市場に分けることもできます。第1章14～15頁参照。



完全競争市場に対して、一般的に財の供給者が1人だけの市場を**独占市場**といいます。独占市場の供給者は独占企業とよべれます。独占企業は他の企業と競争する必要がないので、市場価格を自分で自由に決めることができます。このように市場価格を定めることができる主体を**プライス・メイカー（価格設定者）**とよびます。また、供給者が少ししかない市場は**寡占市場**といいます。寡占市場の供給者である寡占企業も市場価格に影響を与えることができますが、その影響は独占企業ほど大きくありません。独占市場と寡占市場は第9章で詳しく説明をします。

## 2 市場需要曲線と市場供給曲線

第2章で説明した翔と健太の需要曲線は、個人の需要曲線なので**個別需要曲線**とよべますが、経済全体を考えるとときには**市場需要曲線**を使います。市場需要曲線は個々の価格に対応する市場全体の需要量を表す曲線です。一般的には、財の価格が上がると需要量が減少するので、市場需要曲線は右下がりになります。

**図3-1**は市場需要曲線の描き方を示しています。もし牛肉の需要者が翔と健太だけならば、価格が200円のとき健太の需要量は400g、翔の需要量は300gなので、横軸に沿って足すと市場全体の需要量は700gになります。他の価格のときも同じ方法を用いることができます。需要者が多数のときも、全員の個別需要曲線をこのように横に足し合わせると市場需要曲線になります。

第2章で説明した大阪屋と東京屋の供給曲線は、個々の供給者の供給曲線なので、**個別供給曲線**とよべれます。この個別供給曲線を需要曲線と同じように横軸に沿って足し合わせると**市場供給曲線**になります。市場供給曲線は個々の価格に対応する市場全体の供給量を表す曲線です。一般的には財の価格が上がると供給量が増加するので、市場供給曲線は右上

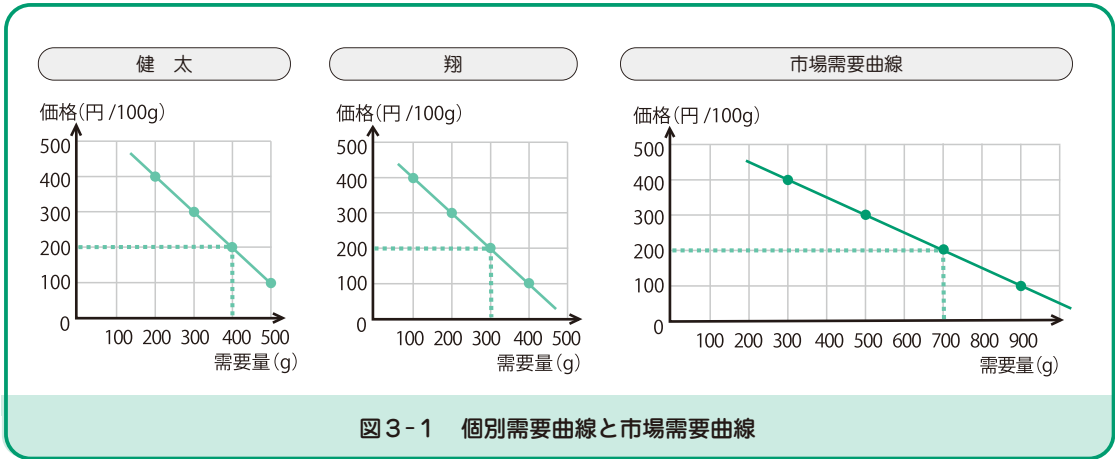


図3-1 個別需要曲線と市場需要曲線

がりになります。

図3-2は市場供給曲線の描き方を示しています。もし牛肉の供給者が東京屋と大阪屋だけだとすると、価格が200円するとき東京屋の供給量が200g、大阪屋の供給量が300gなので、横軸に沿って足すと市場全体の供給量は500gになります。他の価格のときでも市場全体の供給量の見つけ方は同じです。完全競争市場のように多くの供給者がいるときにも、個別供給曲線をこのように全員分横方向に足し合わせると市場供給曲線を導くことができます。

## column

### 見えざる手と ワルラス競売人

経済学の父と呼ばれるアダム・スミスは、財の価格は特定の誰かが決めているのではなく、市場の価格調整メカニズムによって決まると考え、このことを「見えざる手」に例えました。それに対して一般均衡理論の創始者であるレオン・ワルラスは競売人という仮想的主体を想定し、この競売人が市場に参加している人の需要量と供給量をすべて把握し、両者が等しくなるように財の価格を決めると考えました。この競売人を「ワルラス競売人」といいます。経済実験を用いた研究によると、たとえワルラス競売人がいなくても、アダム・スミスの考えたように見えざる手に導かれて市場均衡が達成されることが明らかになっています。その理由としては、需要者と供給者が取引を繰り返すことで相場を学んだり、他者の行動を真似たりするからではないかと考えられています。



**アダム・スミス**  
1723～1790  
イギリスの経済学者。経済学の父とよばれる。主著に『国富論』（諸国民の富の性質と原因に関する研究）がある。保護貿易を批判し自由貿易を推進する考え方を示した。



**レオン・ワルラス**  
1834～1910  
フランス生まれ、スイスの経済学者。代表的な著書は『純粋経済学要論』。経済を構成するすべての市場を同時に分析する手法である一般均衡分析を数学的に説明した。

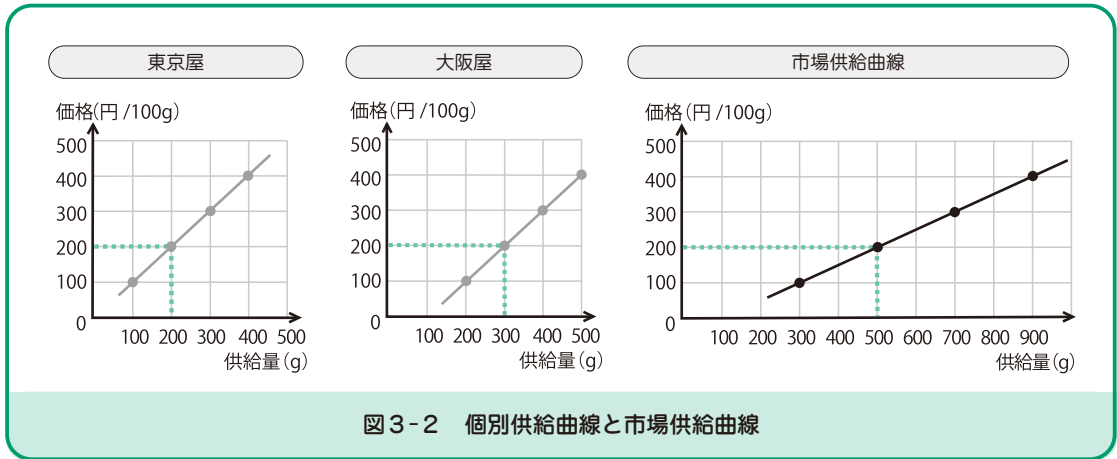


図3-2 個別供給曲線と市場供給曲線

### 3 市場取引のメカニズム

では完全競争市場において需要者と供給者が取引すると、最終的に牛肉の価格や取引量はどのように決まるのでしょうか。本章ではこれ以降、市場需要曲線は需要曲線、市場供給曲線は供給曲線と簡単によぶことにします。

図3-3は牛肉の需要曲線と供給曲線を1つの図に描いたものです。縦軸は牛肉の価格、横軸は牛肉の量を表しています。さきほどは翔と健太を需要者、大阪屋と東京屋を供給者としてしましたが、ここでは完全競争市場な

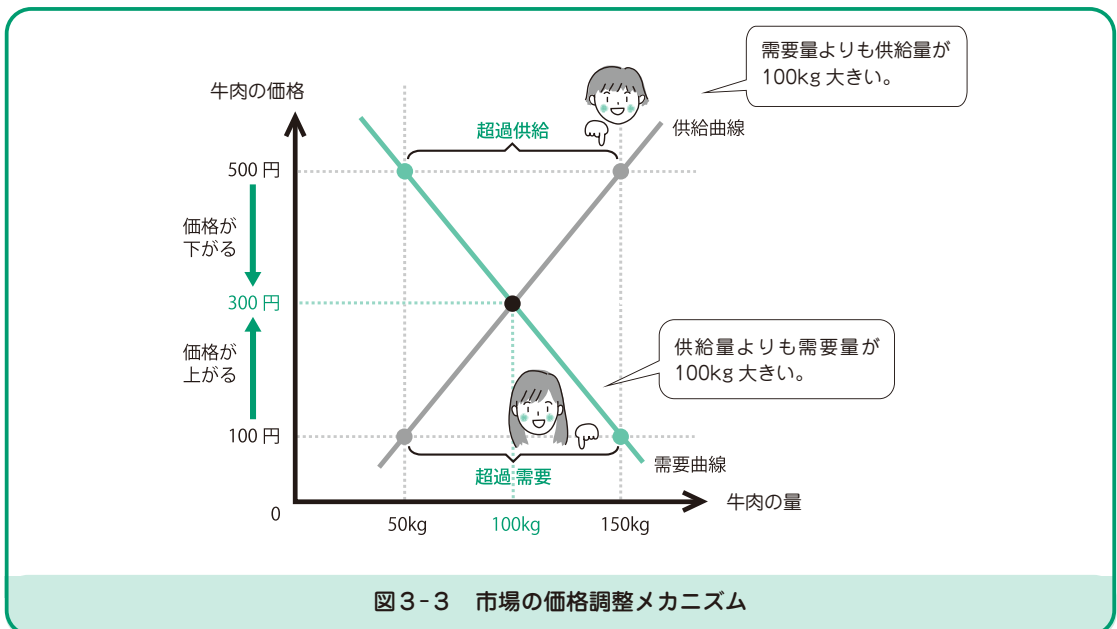


図3-3 市場の価格調整メカニズム

のでたくさんの需要者と供給者がいます。第2章で説明したように、需要曲線や供給曲線を描くときは分析対象となる財の価格以外の要因（需要曲線であれば好みや他の財の価格、供給曲線であれば労働者の給料や生産技術）は変わらないと仮定しています。

まず牛肉の市場価格が100円の時を見てください。牛肉の需要量は150kg、牛肉の供給量は50kgなので、需要量のほうが100kg大きくなっています。経済学では、ある価格のもとで需要量が供給量よりも大きい状態を**超過需要**といいます。超過需要は牛肉が不足している状態なので、牛肉を買いたいけれども買えない需要者がいます。その中には今よりも価格が高くて牛肉を買いたいと考える需要者がいるので、市場価格はだんだん上がります。超過需要がなくなるまで市場価格が上がるので、牛肉の市場価格は300円になります。

次に牛肉の市場価格が500円の時を見てみましょう。牛肉の供給量が150kg、牛肉の需要量が50kgなので今度は供給量のほうが100kg大きくなっています。このように、ある価格のときに供給量が需要量よりも大きい状態を**超過供給**といいます。超過供給の状態では牛肉を売りたいけれども売れない供給者がいます。そして価格が今より安くても牛肉を売りたいと考える供給者がいるので、少しずつ市場価格が下がります。最終的に超過供給がなくなるところ、つまり300円まで牛肉の市場価格が下がります。

このように市場では需要と供給が等しくなるように価格が調整されます。需要と供給が等しい状態を**市場均衡**<sup>きんこう</sup>といいます。市場均衡での価格を**均衡価格**、数量を**均衡取引量**といいます。さきほどの牛肉の市場では均衡価格が300円、均衡取引量が100kgになります。経済学では**均衡**という言葉がよく登場しますが、これは行動を変えるインセンティブを誰も持たないために、これ以上別の状態へ変わらないという意味です。市場均衡では需要者は財を買いたいと思うだけ買い、供給者は売りたいと思うだけ売っているので、ひとたび市場均衡に達すれば価格以外の条件が変わらない限りは別の状態へ動くことはありません。

財の価格は需要と供給の両方から決まることを理解いただけましたか。イギリスを代表する経済学者であったアルフレッド・マーシャルは、はさみに2つの刃が必要なように、価格の決定にも需要と供給が必要であると述べています。そういえば需要曲線と供給曲線はハサミの形に似ていますね。あなたも市場メカニズムの面白い例えを考えてみませんか？

均衡には市場均衡以外にも、たとえばナッシュ均衡があります。第6章61頁参照。



アルフレッド・マーシャル  
1842~1924

イギリスの経済学者。主著『経済学原理』で需要と供給の理論を説明した。「経済学者は冷静な頭脳と温かい心を持たなければならない」という言葉を残している。



この章には「経済実験 1 取引実験」が付属します。詳しくは 145 頁を参照してください。

もっと  
知りたい人  
のために

### 調整過程

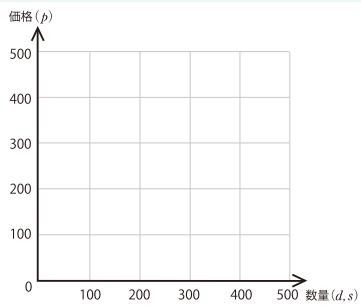
ある財が超過需要のときには価格が下がり、超過供給のときには価格が上がることで最終的に需要と供給が等しくなるというプロセスを**ワルラス的調整過程**といいます。それに対して、価格ではなく数量が需要と供給を調整するプロセスを**マーシャル的調整過程**といいます。ワルラス的調整過程では価格よりも需要量や供給量の調整速度が速い市場、マーシャル的調整過程では価格よりも供給量の調整速度が遅い市場を想定しています。一般的にはワルラス的調整過程をもとに、さまざまな経済問題を需要曲線と供給曲線を使って分析します。

## 課題 市場の分類と市場均衡

解答は 135 ページ

1 文章を読んで①～④に当てはまる言葉を答えなさい。

完全競争市場では需要者と供給者は (①) であり、与えられた市場価格のもとで自分の利益が最も大きくなるように需要量や供給量を定める。完全競争市場に対して、一般的に財の供給者が 1 人だけの市場を (②) といい、供給者は価格を設定できることから (③) とよぶ。また供給者が少数しかいない市場を (④) といい、供給者は完全競争市場とは異なり市場価格に影響を及ぼすことができる。



2 ある財の需要曲線(①式)と供給曲線(②式)が下記の通り表されるとする。このとき以下の問いに答えなさい。

$$d = 500 - p \cdots \text{①}$$

$$s = p - 100 \cdots \text{②}$$

( $d$ : 需要量(個)、 $s$ : 供給量(個)、 $p$ : 価格(円))

- (1) 需要曲線と供給曲線を図示しなさい。
- (2) 均衡価格と均衡取引量を求めなさい。